４９th全青研速報 11

2015
11/23

「青年たちよ 創始の志を胸に 夢あふれる未来へ」

主催/(一財)全日本ろうあ連盟　青年部　主管/(一社)新潟県聴覚障害者協会　青年部　第49回全国ろうあ青年研究討論会実行委員会

《入門講座・分科会の様子》

■入門

講師の石野氏からはろうあ運動の歴史について、講師の大楠氏からは現在の組織や青年部の活動について、それぞれ講演や情報提供がなされた。参加者にとって、今後の青年部活動に対して意欲が湧いてくるような内容であった。

インタビュー

大分県

・ろう者に対する差別についての話がとても印象に残った。これからは差別がなくなるように、私たちが頑張っていかなければと思った。

■暮らし

グループ討論では、各自の意見をふせんに書いて模造紙に貼り、発表した。例えば「直接差別と間接差別」「手話・仕事・生活　それぞれの課題」のように、どのグループもふせんをカテゴリーごとに分け、分かりやすくまとめていた。

インタビュー

大阪府

・すごく楽しかった！2016 年４月からスタートする障害者差別解消法に関して、「どういう合理的配慮が必要か？」「何を差別と言うのか？」ということについて改めて学ぶいい機会になった。今回学んだことを大阪に持ち帰って、今後のさまざまな活動に役立てたい。

■組織活動

座長の中西氏による「アリの２：６：２」の法則の話が、ユニークかつ組織での活動を進める際に大変参考になる内容であった。グループ討論では参加者から、各県での組織活動の課題や、ろう青年が連携していくことの必要性が語られた。

インタビュー

滋賀県

・今回初めて全青研に参加した。はじめは内容が難しかったが、徐々に「組織活動ってこういうことか」と分かってきた。また、グループ討議の時は色々な意見が飛び交って興味深く、勉強になった。

■手話

助言者の中橋氏の情報提供の後、「手話によって情報を得られる社会にするためには」というテーマで討論が行われた。参加者からは、それぞれ異なる職種や立場から、有益な意見が多く出された。

インタビュー

福島県

・助言者の中橋氏から情報アクセシビリティについての話を聞いた。この話を受け、私が勤めている職場の健聴者は手話を学んでほしいと思った。

■労働

グループ討論からは、「職場の音声放送で連絡されても聞こえない」「残業があるという連絡が聞こえず知らないまま帰ったら怒られた」といった、ろう者の労働環境の課題が浮かび上がった。また、助言者の久松氏からは、「アメリカではろうの医師や弁護士が何人いるかというデータは意味がない。ろうであっても、努力すればなれるという考え方」という事例の紹介があり、日本との違いを実感させられた。

インタビュー

・今回初参加。交渉や失敗を重ねた先人達の活動のお陰で、今自分は大手の企業に入れているのだと思い、とてもありがたく思った。先輩達の活動に感謝するだけではなく、これからは僕達が活動していかなければならない。そして、自分達の下の世代にも活動を伝えていく必要があると思った。

■スポーツ

グループ討論では、与えられたテーマではなく「自分たちが討論したいテーマ」を決めるところから始まる点が印象的であった。「デフリンピックの知名度を上げるためには」「青年部と体育部の連携を深めるためには」といったテーマについて、活発な討論がなされた。

インタビュー

徳島県

・今回参加して、改めてデフリンピックの知名度が低いのだと知った。自分も選手として活動しているが、知名度を高めるためにはこれから協力していかないといけないと思った。
また、他の参加者との交流が深まってよかった。

◆第４９回全青研　ホームページ公開中！

http://49thdeafniigata.jimdo.com/

←ホームページの QR コード

◆Facebook　更新中！

皆さんからの いいね! をお待ちしております！

Facebook の QR コード→